

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ピノキオ幼児舎 井草保育園
法人名	株式会社 ピノコーポレーション
法人所在地	東京都杉並区高円寺南4-26-16 ビクトリアプラザ高円寺3F

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」～畑で育てた野菜を食べてみよう～

<テーマの設定理由>

絵本や図鑑を通しての野菜には興味を持っていたが、給食で提供される調理済みの野菜は本来の形が分からず、野菜を食べることへの抵抗感、苦手意識を持っていた子が少なくなかった。子どもたち自らが種をまき、生長を見守り、収穫し、食材調理まで一貫して関わる実体験ができることで、野菜本来の匂い、感触、形を知って食への関心をより深めていくために設定。

「区民農園」を借りて自ら育てる環境を整えつつ、千葉県の「たがやす倶楽部」とのオンライン中継による交流を継続して行い、近隣の「ベジファームかのかん」での収穫体験を組み合わせることで、広い畑でのダイナミックな生長を感じながら、連続した取り組みの中で「食」を心と体で楽しめるようにした。

2. 活動スケジュール

- | | | |
|-------|--------|----------------------------|
| 1 | 4下旬 | 絵本で野菜を知ろう |
| 2 | 5月22日 | ピーマン・オクラ、サトイモ、スイカを植えたよ |
| 3 | 5月23日 | サツマイモの苗植え体験（2歳児クラス） |
| 4 | 6月18日 | かかしを作ろう |
| 5 | 6月26日 | 畑からの中継1～千葉の畑に案山子を！～ |
| 6 | 6月30日 | かかしの設置 |
| 7 | 7月11日 | ピーマン・オクラを収穫したよ |
| 8 | 7月11日 | すいかを収穫したよ |
| 9 | 9月9日 | ピーマンを食べよう |
| 10 | 9月9日 | すいかの種をとりました |
| 11 | 9月18日 | 千葉県契約農家の畑からの中継2 |
| 12 | 10月21日 | 【井草農園】サツマイモ掘り |
| 13 | 10月23日 | 収穫したサトイモを食べよう |
| 14 | 11月12日 | サツマイモ掘り遠足（ベジファームかのかん） |
| 15 | 11月26日 | お芋を食べよう① |
| 16 | 12月3日 | お芋を食べよう②【サブレ】～洗ってきれいにしてみよう |
| 17 | 12月5日 | 畑からの中継3～千葉のにんじん！～ |
| 18 | 12月7日 | お芋を食べよう③～モンブラン～ |
| 19 | 12月8日 | にんじんを食べよう①にんじんのロースト |
| 20 | 12月9日 | にんじんを食べよう②にんじんの葉ふりかけ |
| 21 | 12月15日 | お芋を食べよう～サツマイモ汁～ |
| 22 | 12月16日 | にんじんを食べよう③にんじんの磯和え |
| 23 | 12月17日 | お芋を食べよう⑤～マッシュスティック～ |
| 24 | 12月23日 | にんじんを食べよう④にんじんのポタージュ |
| 25 | 1月22日 | しいたけ育ててみよう |
| 26 | 2月6日 | 土の中からこんにちは |
| 毎月30日 | | 【配信資料】ピノファーム通信（大人向け） |

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

本物の野菜と調理された野菜との違いを実際に育て調理することで野菜への親近感を高める環境を整えた。

はじめは野菜や植物に関する絵本を読み、「この野菜はどんなお料理に出るかな?」「ゆでたら甘くなるかな」などの問いかけをし、興味や新たな気づきに繋がる活動を展開した。

活動を通し、絵本のセリフを真似したり、実物と同じ形や色であるかを確認したりする姿が見られたため、さらに想像力と食材への興味を広げられるよう構成した。

「この苗からどんな野菜が出来るのかな?」「水だけで大きく育つのかな?」などの問いかけをしつつ、近隣の区民農園を活用し、自分たちで種をまき、水やりをして生長を見守る直接的な体験をプログラムの主軸にして活動した。また、一部は千葉「たがやす倶楽部」や近隣の「ベジファームかのん」でも活動。日を追うごとに姿かたちが変わっていく不思議さや疑問、「もうすぐ食べられる」というわくわく感、自分たちが収穫するという達成感と期待感を、目の前（一部映像）で直接味わえるようにした。

収穫したものは、収穫した日や翌日に提供したり、泥を洗ったり、クッキングを行ったりした。これにより残食になりがちだった野菜も、「自分で採った特別なもの」という気持ちが後押しとなり、普段あまり野菜を口にしない子どもからも「おいしい!」という声につながっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「野菜の味が嫌い」「見た目も苦手」という子どもたちのために、絵本や図鑑を用いて興味・関心を引き出せるよう配慮した。本物の野菜には抵抗がある子どもも、絵本を介することで主体的に関わり、「みどり色だね」と気づいたことを伝えたり、「あむっ」と食べる真似をしたりする姿が見られた。

畑での活動では、自分たちで育てているという特別感を抱く子どもが多く、園内での活動だけでなく、降園後の帰路に保護者と畑に立ち寄る姿もあった。「今日はお水をあげたんだよ」

「もへじ（かかし）に頑張れって言ったんだ!」と、自らの体験を言葉で表現する姿は、保護者のみならず、保育者としても大きな成長を感じるものだった。

保護者に対しては、子どもの声を伝えるだけでなく、園内にドキュメンテーションを掲示し、視覚的にも活動を報告・共有した。家庭からは「今まで野菜をあまり食べなかったが、収穫した野菜を食べて以来、スーパーで購入したものでも食べられるようになった」といった声が寄せられた。今年度の活動は、単なる食育に留まらず、子どもたちの苦手意識の克服や食事の楽しさの発見へと繋げることができた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

探究活動を通じ、乳児期の体験が、子どもの好き嫌い、食への興味を形成することに大切であると再認識した。4月当初は、野菜への苦手意識や抵抗感が見られた子どもたちが、絵本から興味をもち、自ら種をまき、水をあげて、生長を間近で見守るという過程で、食材が子どもたちにとって愛着の対象へと変わったことが印象的だった。

特に、サツマイモの栽培や、収穫したダイコンにおいては、自分たちの手が加わった食材が料理へと変わったことで、「食べてみたい」という意欲を力強く後押しし、結果として、園の通常では残食になりがちなメニューも、自身が関わったメニューであれば「おいしい!」と、完食率が向上するという成果につながった。

また、園内の活動だけでなく、降園後に保護者と畑を訪れたり、かかしの「もへじ」に声をかけたりといった子どもたちの行動は、「生活の一部」として根付き、愛着などのポジティブな思いを抱くことになった。千葉「たがやす倶楽部」とのオンライン中継や、近隣農園での収穫体験など、連続性のある活動や環境構成も、子どもたちの探究心を向上させるきっかけになった。

当園は「ひとりひとりに、のびやか保育」をテーマに保育しているが、食の面でも一人ひとりに寄り添った、興味を引き出す言葉がけや体験を通して、子どもたちの成長を支えていきたい。

5. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

★区民農園を借用し、職員による耕耘および施肥（肥料の攪拌）を実施。子どもたちが安全に活動し、土に親しみやすい土壌環境を整えた。

- ・手袋、長靴、肥料、マルチシート、スコップ等（区民農園で職員による耕耘および施肥（肥料の攪拌））
- ・ピーマン、サトイモ、サツマイモ、スイカ、メロン、オクラ、カボチャ、ブロッコリー、キャベツ、種を数種類
- ・針金、支柱、工具、衣類等（かかしの製作）

★生産者との遠隔交流：千葉県の「たがやす倶楽部」とWEB中継をし、作物の生長観察や、子どもたちの疑問に生産者が答える交流を実施。

※職員が現地へ赴き、栽培管理（手入れ・収穫）を並行して行うことで、園と産地のつながりを深めた。

★収穫した食材を即時提供（献立：ピーマンのナムル、サトイモの味噌田楽、ふかし芋、サツマイモの味噌バター煮、サツマイモクッキー、サツマイモのモンブラン、サツマイモ汁、サツマイモのマッシュスティック、ニンジンの葉ふりかけ、ニンジンとカブのロースト、にんじんの磯和え、ニンジンのスープ など）

★地域資源を活用した収穫体験：近隣農園での収穫体験機会を設ける（収穫物：カブ、ハウレンソウ、ダイコン、ラディッシュ、サツマイモ）

★冬季、室内での継続的な観察（きのこ栽培）：冬季でも室内で生長を間近に感じられるよう、4種類のきのこ栽培キットを購入し、日常的に観察できる環境を整えた。